

校名：福岡教育大学附属福岡小学校

所在地：810-0061 福岡市中央区西公園12-1

電話番号：092-741-4731

記載日：平成28年5月18日

記載者：平井 源樹

記載者役職：教務主任

本校の校風、大まかな特色

今年で創立140周年を迎える歴史と伝統を誇る学校である。会議室には、校訓「深固（しんこ）」の額がある。深固とは、「努力精進を求めて、基礎や根本をしっかり固めれば、やがて成就する」という意味である。福岡県初代知事の有栖川宮熾仁親王（ありすがわのみやたるひとしんのう）が、当時本校を視察された際、ご真筆のうえ寄贈されたものである。福岡県の教育の中心として、本校への大きな期待が込められている。

卒業生には、戦時中の軍閥政治を真っ向から批判した政治家「中野正剛（なかのせいごう）氏」、吉田内閣の中樞として活躍し副総理も歴任した「緒方竹虎（おがたたけとら）氏」がいる。世のため人のために、強く生きた偉大な先輩たちである。

校庭には、本校のシンボル「藤棚」がある。明治22年から根付き花を咲かせ続けており、毎年花が実る4月下旬には藤見学芸会が伝統的に行われている。藤は、戦時中旧校舎が焼失した時も強い生命力で奇跡的に生き残り、今に至っている。この藤の姿は、強く耐え抜いて社会のために貢献していくことの大切さを伝えている。

本校は、現在も、世のため人のために強く生きた本校のひと・ものを尊敬し、伝え学びながら、福岡県の教育のパイロット校として、次の特色ある教育活動を行っている。

○教育研究発表会の開催

毎年、教育研究発表会や授業実践研究会を開催し、教育研究活動の具体的な成果を公開して、先進的な教育研究を行うモデル校としての使命を果たしている。教育研究発表会では、福岡県をはじめ全国から1500～2000名の参会者が訪れている。



有栖川宮熾仁親王ご真筆の「深固」



明治22年から花を咲かせ続けている「藤棚」

○教育実習の実施

教師志望の大学生に対して、新しい授業方法や指導の基礎が確実に身に付く教育実習を行い、教育実習校としての使命を果たしている。

○特別支援学級の設置

1970年に開設され、個に応じるために、一人一人の実態をもとに個別の教育支援計画・指導計画を策定している。平成25～27年度は、文部科学省のインクルーシブ教育システム構築事業の指定を受けて、成果を公立校へ還元している。

○帰国子女学級の設置

1980年に開設され、海外からの帰国子女を受け入れている。海外での生活・学習経験、能力等に応じて、日本の学校生活への適応や滞在国での経験を生かした個性伸張の面から、社会のグローバル化をめざした教育を行っている。

本校の卒業生の活躍状況

①追跡調査の方法

附属福岡小同窓会が同窓会名簿を作成して、更新している。

②把握の状況と管理元

各業界で活躍している同窓生については概ね把握しており、附属福岡小同窓会事務局が管理している。

③主な活躍状況

政界、財界、医学界、教育界、音楽・文化・芸術界において、九州、日本をはじめ世界で多数活躍している。創立140周年記念式典では、サクラダファミリア主任彫刻家の外尾悦郎（そとおえつろう）氏が、母校のため講演会を実施。

本校勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況

①追跡調査の方法

附属福岡小に勤務した教職員の会が名簿を作成して、毎年更新している。

②把握の状況と管理元

附属福岡小に勤務した教職員の会の事務局が毎年管理している。

③主な活躍状況

福岡県教育委員会をはじめ、福岡県教育センター、福岡市教育センター、各地区教育事務所、市町村教育委員会、市町村公立小学校において、教育長や指導主事、校長、教頭、主幹教諭等、要職を歴任し、福岡県下の教育に指導性を発揮している。

魅力のある、特色のある、先導的な取組

○文部科学省研究開発学校指定（平成27年度～30年度）

文部科学省研究開発学校の指定を受け、平成27年度より研究主題を「未来社会を創造する主体としての子供の育成」とし、20年後、30年後に必要となる資質・能力を育成する実践的研究を行っている。「未来社会を創造する主体」に必要な資質・能力を、主体性のある人格育成に着眼して、「基礎力」「内省力」「協働性」「創造性」の4つに設定している。そして、それらを効果的に育成するために、現行の教科等の枠組みをとらえ直し、6つの新領域「言語文化」「社会共創」「自然探究」「生き方」「表現」「健康」を設定している。これらに基づいて、新カリキュラム編成とともに実践を積み重ね、成果を明らかにしていった。



○教育実践力の育成をめざした初等教育実習

本校では、大学1年を対象とした体験実習、大学2年を対象とした基礎実習、大学3年を対象とした初等教育実習を行っている。教師に必要な専門的基礎技術を習得させたり、使命や責任の重さを自覚させたりすることをねらいとしている。何よりも人を教育する喜びと厳しさを体得してもらうことが教育実習の意義と考えている。実習の内容は、学習指導、教科等講話、学習指導参観、学級経営への参加、学習指導整理会への参加、学校行事への参加、生徒指導への参加、査定授業である。本実習を行った学生へのアンケートでは、教育実習を終えて教員を志す学生が増加している結果が表れている。

さらに、教職大学院の実習を行っている。大学院生の実習では、確かな学校教育活動の即戦力となる実践的指導力と新しい教育実践を構想し開発していく展望と力量を育成している。また、現職教員の実習では、学校や地域において、教育実践や授業研究活動等で指導的役割を果たすことのできる高度な指導力、実践力を育成している。それぞれの実習の内容は、教育経営方針及びTA活動に関するガイダンス、単元の授業構想と指導案作成、授業実践の比較、分析、教育的リーダーシップやメンタリング・コーチングのスキル習得である。

○福岡県下の公立学校への貢献

毎年、福岡県内から長期派遣研修員を受け入れ、教育研究の意義や基本的な考え方、研究の進め方などを実践的に指導している。4～5名の研修員は、出身地区の先生方に多くの参加をいただき、7月に中間報告会、2月に最終報告会を行っている。研修員が

研修を終えて県下各地に戻り、地域の教育の振興に寄与している。

本校教員も、福岡県や福岡市の公立小学校、各地区教育研究会へ講師や指導・助言者として年間のべ250校以上出張し、福岡県小学校教育の振興に寄与できるように努力している。

さらに、公立小学校、教育委員会、教育センター等から教育研究についての視察研修の受入れ、研修会を行っている。

○地域への貢献

授業や学校行事を通しての地域の環境美化活動、地域の研究者を招聘しながら地域文化「博多にわか」の継承、オープンキャンパス「あらつフェスタ」における地域住民との交流・親睦、大学と県教育委員会と連携した教育課題解決の取組を行っている。

大学と附属福岡小、県内各教育委員会が連携した事業「いじめ防止プロジェクト」では、附属福岡小の授業実践を活用し、県教育委員会及び県市町村教育委員会連絡協議会と締結した連携を通して、いじめ根絶をめざしている。



地域の環境美化活動「福岡市大濠公園の花植え」



地域文化「博多にわか」の継承

附属学校の存在意義、本校の存在意義

- 教師志望の大学生に対して、体験実習、基礎実習、初等教育実習、大学院生実習を行い、教職への意欲と志を育み、教員としての必要な基礎・基本的な力の習得を図る附属小学校である。
- 公立学校や各地区教育研究会へ講師や指導・助言者として招聘されたり、教育委員会や教育センター等から教育研究についての視察研修、研修会を行ったりしながら、地域の小学校教育の充実と発展に寄与する附属小学校である。
- 文部科学省や県の委嘱研究等を受けて、現代的教育課題解決に向けた調査研究、20年後、30年後の学習指導要領改訂に寄与する先進的な教育に取り組むモデル校である。
- 福岡市地域の環境美化活動、地域文化の継承、地域住民との交流・親睦を積極的且つ幅広く行い、地域へ主体的に働きかけて貢献する附属小学校である。